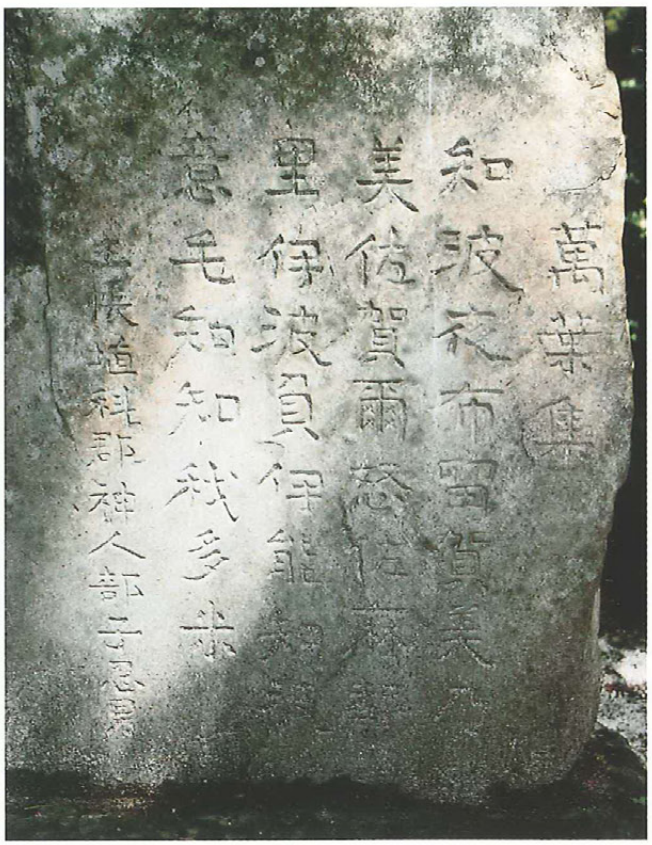
「信濃道者 伊麻能波里美知 可里婆祢尓 安思布麻之牟奈 久都波計和我世」
「信濃道は 今の墾道(はりみち) 刈株(かりばね)に 足踏ましむな 沓(くつ)はけわが背(せ)」(万葉集一四巻 三三九九)

神坂神社の万葉歌碑「信濃道は～」

「知波夜布留 賀美乃美佐賀爾 怒佐麻都里 伊波負伊能知波 意毛知知我多米
右一首 主帳埴科郡神人部子忍男」
「ちはやふる 神の御坂(みさか)に 幣奉(ぬさまつ)り 斎(いは)ふ命は 母父(おもちち)がため」(万葉集二〇巻 四四〇二)



神坂神社の万葉歌碑「ちはやふる～」

3　塩尻市宗賀の万葉歌碑

塩尻市宗賀（そうが）の宗賀小学校に、万葉歌碑が建立されている。縦長（たてなが）の自然石に、上条素山氏の書で、「信濃奈流 須我能安良能尓 保登等藝須 奈久許恵伎気婆 登伎須疑尓家里」と万葉仮名（まんようがな）で刻まれている。この歌は「信濃なる須我の荒野にほととぎす鳴く声聞けば時過ぎにけり」(万葉集 14 巻 3352)である。歌の意味は、信濃の国の須我の荒野でホトトギスの鳴く声を聞くと、もう時節は過ぎ去ってしまったなあ、である。

この時節については、田植えの時であろうとみられている。清少納言の『枕草子』に田植え女が「ほととぎす、おれ、かやつよ、おれなきてこそ、我は田植うれ」と歌っており、田植えとほととぎすの関連が考えられている。(文献 34)

この歌碑のそばには宗賀小学校の校歌碑もあり、「須賀の荒野にくわ入れし」と最初に郷土の歴史が歌われている。この地域は『和名類聚抄（わみょうるいじゅうしょう）』に筑摩郡宇賀とあり、その訓を曽加としていることから、これは誤記で宗賀が正しいとみられている。また『和名類聚抄』高山寺本には「崇賀」と記されており、宗賀郷をさすものとみられている。この宗賀と須我が結びついてこの万葉歌碑が建立されている。なお、下伊那郡下條村菅野（しもじょうむらすげの）に、また上田市菅平（すがだいら）高原にもそれぞれ須我の荒野の万葉歌碑が建てられている。

塩尻市宗賀小学校の万葉歌碑

「信濃奈流 須我能安良能尓 保登等藝須 奈久許恵伎気婆 登伎須疑尓家里」
「信濃なる須我の荒野にほととぎす鳴く声聞けば時過ぎにけり」（万葉集一四巻三三五二）

4　松本市薄川河畔と保福寺峠の万葉歌碑

松本市里山辺の薄川河畔に、万葉歌碑が建立されている。大きな自然石に、「しなのなる ちくまのかはの さざれしも きみしふみては たまとひろはむ」と達筆な仮名で刻まれている。この歌は「信濃なる千曲の川のさざれ石も君し踏みてば玉と拾はむ」(万葉集 14 巻 3400)である。歌の意味は、信濃の国にある千曲川の小石もあなたが踏んだら私は玉と思って拾いましょう、である。

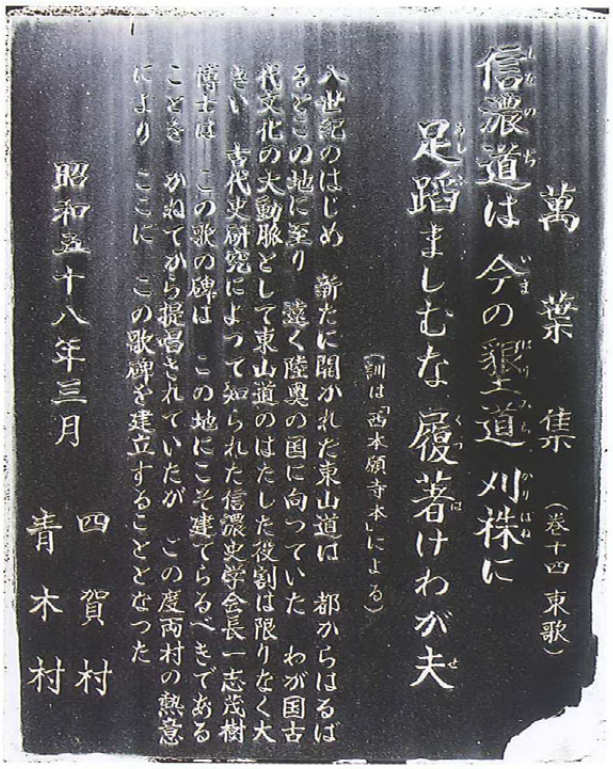
また松本市の保福寺峠の歌碑は「信濃道者 伊麻能波里美知 可里婆祢尓 安思布麻之牟奈久都波 気和我世」と西本願寺本を複写した万葉仮名で刻まれている。歌は「信濃道は今の墾道刈株に足踏ましむな履著けわが夫」(万葉集 14 巻 3399)で、歌碑は一志茂樹氏の 8 世紀初頭に開かれた「今の墾道」は木曽路ではなく、東山道の保福寺峠越えルートとの学説に基づいて建立された。

松本市薄川河畔の万葉歌碑

「しなのなる ちくまのかはの さざれしも きみしふみては たまとひろはむ」
「信濃なる千曲の川のさざれ石も君し踏みてば玉と拾はむ」(万葉集一四巻三四〇〇)

万葉歌碑の建つ薄川の景観

松本市保福寺峠の万葉歌碑



万葉集（巻十四 東歌）

信濃道は今の墾道刈株に
足踏ましむな履著けわが夫

（訓は西本願寺本による）

八世紀のはじめ　新たに開かれた東山道は　都からはるばるとこの地に至り　遠く陸奥の国に向つていた　わが国古代文化の大動脈として東山道のはたした役割は限りなく大きい　古代史研究によつて知られた信濃史学会長一志茂樹博士は　この歌の碑は　この地にこそ建てらるべきであるとの　かねてから提唱されていたが　この度両村の熱意により　ここに　この歌碑を建立することとなつた

昭和五十八年三月　四賀村　青木村

万葉歌碑の解説

四賀村は平成17年に合併して、
松本市となっている。

「信濃道者 伊麻能波里美知 可里婆祢尓 安思布麻之牟奈 久都波気和我世」
「信濃道は今の墾道刈株に足踏ましむな履著けわが夫」（万葉集一四巻三三九九）

万葉歌碑の建つ保福寺峠から松本方面を遠望

5　上田市浦野と菅平高原の万葉歌碑

上田市浦野の東昌寺へ登る道路沿いに、万葉歌碑が建立されている。三角形の自然石に、元川西中学校長中村清山氏の書で、「可能古呂等 宿受夜奈里奈牟 波太須酒伎 宇良野乃夜麻尓 都久可多与留母」と万葉仮名で刻まれている。この歌は「かの児ろと寝ずやなりなむはだすすき浦野の山に月片寄るも」(万葉集14巻3565)である。歌の意味は、あの子と今夜は寝ずに終わるのか、(はだすすき) 浦野の山に月が傾いたなあ、である。この「宇良野」については、地名かあるいは「裏の」の意味で使われたとされている。地名では、近くに東山道浦野駅があり、大宝年間創建と伝える大法寺がある「浦野」をさすとの説が有力とされ、この浦野の地に歌碑が建立された。

また上田市菅平高原の菅平高原自然館には、万葉歌碑が建立されている。元東京教育大学教授の石井庄司氏の書で、「信濃奈流 須我能安良能尓 保登等藝須 奈久許恵伎気婆 登伎須疑尓家里」と万葉仮名で刻まれている。この歌は「信濃なる須我の荒野にほととぎす鳴く声聞けば時過ぎにけり」(万葉集14巻3352)である。この須我の荒野を菅平とする説は田子檀氏の学説に基づいている。菅平は昔から交通の要衝の地で、万葉時代には上田地方に国府があり、菅平を昔から菅の荒野と呼んでいたなどが理由としてあげられた。現在「須我の荒野」については、筑摩郡宗賀説とこの菅平説が有力とされている。

上田市浦野の万葉歌碑

「可能古呂等 宿受夜奈里奈牟 波太須酒伎 宇良野乃夜麻尓 都久可多与留母」
「かの児ろと寝ずやなりなむはだすすき浦野の山に月片寄るも」(万葉集一四巻三五六五)

「信濃奈流 須我能安良能尓 保登等藝須 奈久許恵伎気婆 登伎須疑尓家里」
「信濃なる須我の荒野にほととぎす鳴く声聞けば時過ぎにけり」（万葉集一四巻三三五二）

上田市菅平高原の万葉歌碑

万葉歌碑の建つ菅平高原の景観

6　軽井沢町旧碓氷峠の万葉歌碑

軽井沢町峠町の旧碓氷峠に、万葉歌碑が建立されている。大きな自然石に「碓氷峠万葉集の歌」として２首の歌が刻まれている。最初の歌は「日の暮れにうすひのやまを越ゆる日はせなのが袖もさやにふらしつ　上野国相聞歌」(万葉集 14 巻 3402)である。歌の意味は、（日の暮れに）碓氷の山を越える日は、あの方の袖もはっきり目に付くようにお振りになった、である。

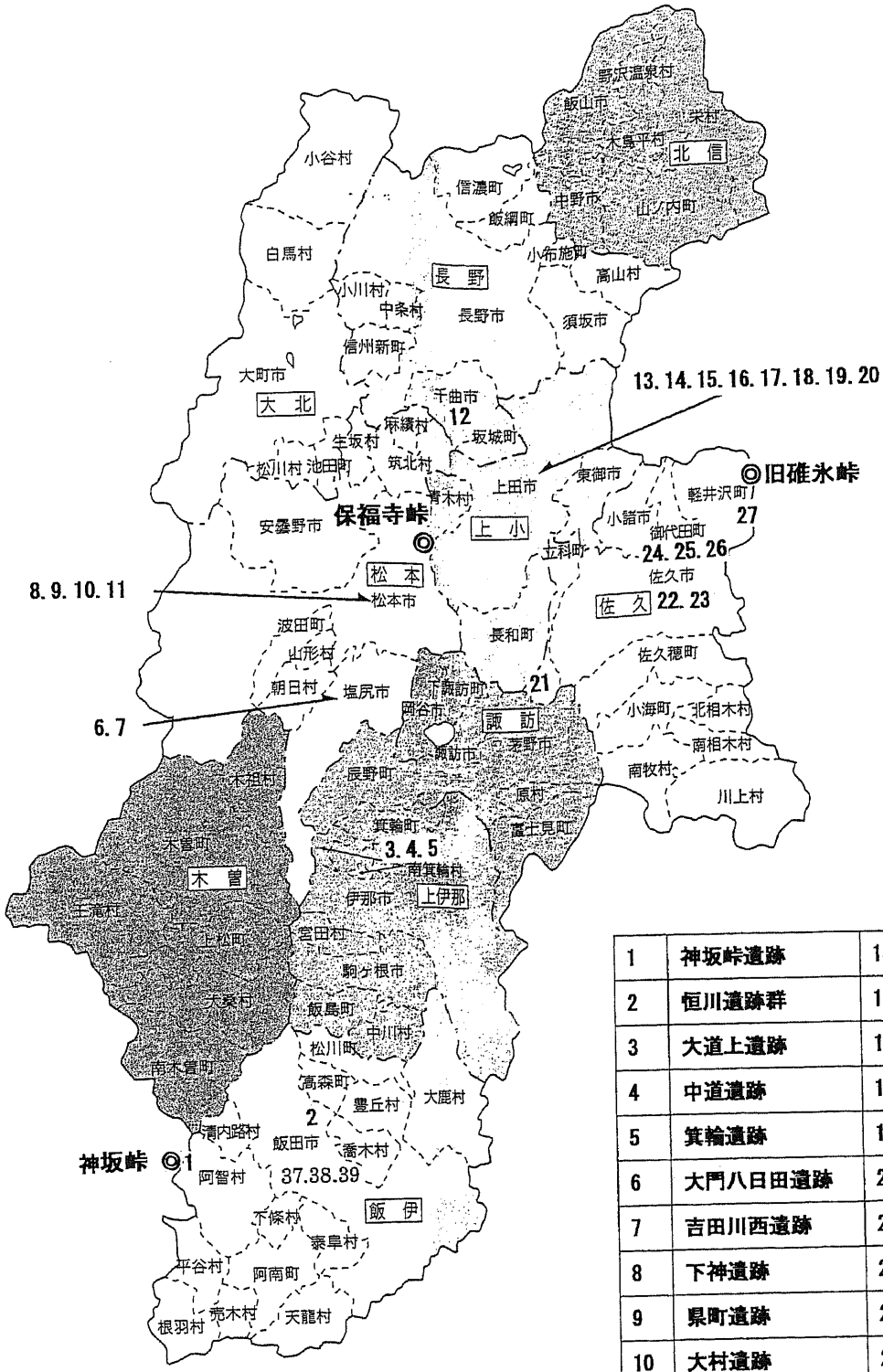
後の歌は「ひなぐもりうすひの坂をこえしだに妹が恋しくわすらえぬかも　上野国防人　他田部子磐前」(万葉集 20 巻 4407)である。歌の意味は、（ひなぐもり）碓氷峠を越えるとき、妻がつらそうにしていたことが忘れられない、である。この歌碑のある見晴台からは上野国が遠くまで一望でき、東山道を通る当時の人々も同様な景色を眺めていたことが推測される。

軽井沢町旧碓氷峠の万葉歌碑

（上掲２点の写真は藤森芳房氏撮影）

「日の暮れにうすひのやまを越ゆる日はせなのが袖もさやにふらしつ　上野国相聞歌」
（万葉集一四巻三四〇二）

「ひなぐもりうすひの坂をこえしだに妹が恋しくわすらえぬかも　上野国防人　他田部子磐前」
（万葉集二〇巻四四〇七）



1	神坂峠遺跡	15	高田遺跡
2	恒川遺跡群	16	東村遺跡
3	大道上遺跡	17	駒籠田遺跡
4	中道遺跡	18	唐臼遺跡
5	箕輪遺跡	19	信濃国分寺跡
6	大門八日田遺跡	20	国分遺跡群
7	吉田川西遺跡	21	雨境峠遺跡
8	下神遺跡	22	前田遺跡
9	県町遺跡	23	聖原遺跡
10	大村遺跡	24	前田遺跡
11	大輔原遺跡	25	野火付遺跡
12	屋代遺跡群	26	川原田遺跡
13	藤之木遺跡	27	入山峠遺跡
14	岳の鼻遺跡		

特別展「信濃の東山道と万葉歌」関係遺跡位置図

展示資料目録

No.	資　料　名	点数	出　土　地	所有者・管理者
1	長野県宝　石製模造品（剣形）	2	阿智村神坂峠遺跡	阿智村
2	〃　〃（有孔円板）	2	〃	〃
3	〃　〃（勾玉）	2	〃	〃
4	〃　〃（刀子）	1	〃	〃
5	〃　〃（勾玉）	2	〃	〃
6	〃　〃（管玉）	2	〃	〃
7	〃　〃（臼玉）	9	〃	〃
8	石製模造品（剣形）	1	立科町雨境峠遺跡群	信濃国分寺資料館
9	〃（有孔円板）	2	〃	〃
10	〃（臼玉）	24	〃	〃
11	〃（管玉）	5	軽井沢町入山峠遺跡	軽井沢町歴史民俗資料館
12	〃（剣形）	5	〃	〃
13	〃（有孔円板）	5	〃	〃
14	〃（臼玉）	10	〃	〃
15	瓦塔片	1	千曲市屋代遺跡群	長野県立歴史館
16	温硯	1	〃	〃
17	円面硯	1	〃	〃
18	銅製丸鞆	1	〃	〃
19	銅製巡方	1	〃	〃
20	国符木簡（複製品）	1	〃	〃
21	郡符木簡（複製品）	1	〃	〃
22	信濃国印（複製品）	1	〃	〃
23	九葉素弁蓮華文軒丸瓦	3	上田市国分遺跡群	信濃国分寺資料館
24	九葉単弁蓮華文軒丸瓦	2	〃	〃
25	九葉（十葉）単弁蓮華文軒丸瓦	2	〃	〃
26	偏行唐草文軒平瓦	1	〃	〃
27	灰釉陶器碗	2	〃	〃
28	灰釉陶器皿	2	〃	〃
29	灰釉陶器耳皿片	2	〃	〃
30	緑釉陶器碗片	6	〃	〃
31	丸瓦	2	〃	〃
32	平瓦	1	〃	〃
33	風字硯・丸鞆	2	松本市県町遺跡	松本市立考古博物館

No.	資　料　名	点数	出　土　地	所有者・管理者
34	丸瓦	2	松本市県町遺跡	松本市立考古博物館
35	軒丸瓦	3	松本市大村遺跡	〃
36	軒平瓦	3	〃	〃
37	平瓦	4	〃	〃
38	丸瓦	1	〃	〃
39	鴟尾	2	〃	〃
40	円面硯	1	〃	〃
41	緑釉陶器	2	〃	〃
42	丸鞆	1	〃	〃
43	把手付中空円面硯	1	松本市大輔原遺跡	〃
44	円面硯	1	〃	〃
45	灰釉陶器碗	2	阿智村神坂峠遺跡	阿智村
46	緑釉陶器碗片	3	〃	〃
47	墨書土器「厨」	1	飯田市恒川遺跡群	飯田市教育委員会
48	墨書土器「官」	1	〃	〃
49	墨書土器「信」	1	〃	〃
50	刻印須恵器「美濃」	1	〃	〃
51	朱墨パレット	1	〃	〃
52	円面硯	5	〃	〃
53	軒丸瓦	2	〃	〃
54	軒平瓦	2	〃	〃
55	丸瓦	1	〃	〃
56	平瓦	1	〃	〃
57	炭化米	1	〃	〃
58	灰釉陶器花文皿	1	〃	〃
59	緑釉陶器花文碗	1	〃	〃
60	緑釉陶器輪花皿	1	〃	〃
61	須恵器坏	1	〃	〃
62	須恵器蓋	1	〃	〃
63	灰釉陶器皿	1	箕輪町大道上遺跡	箕輪町郷土博物館
64	灰釉陶器長頸壷	1	〃	〃
65	土師器鉢	1	〃	〃
66	土師器坏	1	〃	〃
67	帯金具	1	箕輪町中道遺跡	〃
68	須恵器坏	1	〃	〃

No.	資　料　名	点数	出　土　地	所有者・管理者
69	須恵器坏（高台付）	1	箕輪町中道遺跡	箕輪町郷土博物館
70	須恵器小壷	1	〃	〃
71	紡錘車	2	〃	〃
72	人形	1	箕輪町箕輪遺跡	〃
73	馬形	1	〃	〃
74	斎串	1	〃	〃
75	瓦塔片	5	塩尻市大門	塩尻市立平出博物館
76	緑釉陶器皿	1	塩尻市吉田川西遺跡	長野県立歴史館
77	墨書土器「西寺」	1	〃	〃
78	〃　「榛原」	1	〃	〃
79	緑釉陶器碗	1	松本市下神遺跡	〃
80	墨書土器「草茂」	1	〃	〃
81	〃　「南殿」	1	〃	〃
82	〃　「西戸舎」	1	〃	〃
83	円面硯	1	〃	〃
84	馬歯	2	上田市藤之木遺跡	信濃国分寺資料館
85	須恵器坏	3	〃	〃
86	須恵器坏蓋	3	〃	〃
87	土師器甕	3	〃	〃
88	土師器坏	3	〃	〃
89	瓦塔片	6	上田市岳の鼻遺跡	〃
90	丸瓦	3	上田市高田遺跡	〃
91	平瓦	3	〃	〃
92	須恵器坏・坏蓋	4	〃	〃
93	浄瓶片	1	〃	〃
94	四重弧文軒平瓦	1	上田市東村遺跡	〃
95	丸瓦・平瓦	19	〃	〃
96	須恵器坏	2	上田市駕籠田遺跡	〃
97	馬歯	1	〃	〃
98	須恵器壷片	2	〃	〃
99	土師器坏	2	〃	〃
100	須恵器短頸壷	1	〃	〃
101	刀子	1	〃	〃
102	瓦塔片	1	上田市唐臼遺跡	〃
103	軒丸瓦	5	上田市信濃国分寺跡	〃

No.	資　料　名	点数	出　土　地	所有者・管理者
104	軒平瓦	3	上田市信濃国分寺跡	信濃国分寺資料館
105	円面硯	2	〃	〃
106	和同開珎	1	〃	〃
107	緑釉陶器	2	〃	〃
108	青磁碗	1	〃	〃
109	文字瓦「伊」	2	〃	〃
110	文字瓦「更」	1	〃	〃
111	文字瓦「七九六十三」	1	〃	〃
112	墨書土器「講院」	1	〃	〃
113	刻書須恵器「佐久」	2	〃	〃
114	刻書須恵器「大」	3	〃	〃
115	刻書須恵器「井」	1	〃	〃
116	鉄釘	2	〃	〃
117	瓦塔片	1	〃	〃
118	十二神将像	1		信濃国分寺
119	唐三彩陶枕片	1	佐久市前田遺跡	佐久市教育委員会
120	墨書土器「長倉寺」「長倉」	2	〃	〃
121	緑釉小瓶	1	佐久市聖原遺跡	〃
122	和同開珎	1	〃	〃
123	石製私印「伯万私印」	1	〃	〃
124	円面硯	1	〃	〃
125	丸鞆・巡方・鉸具	3	〃	〃
126	墨書土器「小郡」	1	〃	〃
127	刻書土器「佐」「於寺」	2	〃	〃
128	瓦塔片	2	〃	〃
129	墨書土器「倉」	1	御代田町前田遺跡	浅間縄文ミュージアム
130	円面硯	1	〃	〃
131	墨書土器「大工」「大田」	2	御代田町野火付遺跡	〃
132	墨書土器「八科」	1	〃	〃
133	馬骨	1	〃	〃
134	神功開寶・隆平永寶・饒益神寶・萬年通寶(?)	4	〃	〃
135	墨書土器「寺」	2	御代田町川原田遺跡	〃
136	火熨斗	1	〃	〃

引用・参考文献

No.	編著者	文献名	発行所	発行年
1	田名網宏	「駅制」『国史大辞典第2巻』	吉川弘文館	1980
2	木下良編	古代を考える　古代道路	吉川弘文館	1996
3	木下良	事典　日本古代の道と駅	吉川弘文館	2009
4	佐藤信	日本の時代史4 律令国家と天平文化	吉川弘文館	2002
5	鐘江宏之	全集 日本の歴史 第3巻 律令国家と万葉びと	小学館	2008
6	古代交通研究会	日本古代道路事典	八木書店	2004
7	一志茂樹	古代東山道の研究	信毎書籍出版センター	1993
8	黒坂周平	東山道の実証的研究	吉川弘文館	1992
9	中山晋	「下野国と東山道」『古代文化』49巻8号	古代学協会	1997
10	長野県教育委員会	中央道埋蔵文化財調査報告書 —阿智村斜坑広場その1	長野県教育委員会	1972
11	市村咸人	下伊那郡史　第4巻	下伊那郡史編纂会	1961
12	福島正樹	「2章 信濃国のなりたち」『長野県の歴史』	山川出版社	1997
13	長野県文化財保護協会	信濃の東山道	長野県文化財保護協会	2005
14	市澤英利	東山道の峠の祭祀	新泉社	2008
15	小林幹男他	雨境峠—祭祀遺跡と古道—	立科町教育委員会	1995
16	坂詰秀一他	武蔵国分寺跡北西地区の遺跡 推定東山道武蔵路	西国分寺地区 遺跡調査会	1996
17	椙山林継	「入山峠遺跡」 『長野県史考古資料編全1巻(2)』	長野県史刊行会	1982
18	寺内隆夫他	上信越自動車道発掘調査報告書26 屋代遺跡群	長野県埋蔵 文化財センター	1999
19	渋谷恵美子他	恒川遺跡群—遺物編その1（古代・中世）	飯田市教育委員会	2005
20	柴登巳夫	「大道上遺跡発掘調査　推定東山道の検出 —現地説明会より—」『信濃考古』No.143	長野県考古学会	1995
21	赤松茂他	大道上遺跡	箕輪町教育委員会	1996
22	原明芳他	中央自動車道埋蔵文化財調査報告書3 吉田川西遺跡	長野県埋蔵 文化財センター	1989
23	桐原健他	松本市史 第2巻歴史編Ⅰ 原始・古代・中世	松本市	1996
24	石上周蔵他	中央自動車道埋蔵文化財調査報告書6 下神遺跡	長野県埋蔵 文化財センター	1990
25	上田市誌編さん委員会	上田市誌 歴史編(3) 東山道と信濃国分寺	上田市誌刊行会	2000
26	倉沢正幸	「小県郡西部の推定東山道沿いの古代寺院 跡、官衙跡の考察」『信濃』59巻2号	信濃史学会	2007
27	上田市教育委員会	高田	上田市教育委員会	1991
28	尾見智志	「発掘された道路状遺構について」『千曲』130号	東信史学会	2006
29	上田市教育委員会	駕籠田（築地）遺跡	上田市教育委員会	1999
30	上田市教育委員会	国分遺跡群	上田市教育委員会	2002
31	小林真寿	聖原（第1分冊～第5分冊）	佐久市教育委員会	2002～5
32	堤隆	「野火付遺跡」『信州の大遺跡』	郷土出版社	1994
33	稲岡耕二	「万葉集」『国史大辞典第13巻』	吉川弘文館	1992
34	佐竹昭広他	「萬葉集一～四巻・索引」 『新日本古典文学大系』	岩波書店	1999～2004

特別展覧会開催にあたり、下記の方々のご協力、ご指導を賜りました。厚く御礼申し上げます。

協力機関（五十音順）

浅間縄文ミュージアム、阿智村、阿智村教育委員会、飯田市教育委員会、飯田市考古資料館、軽井沢町歴史民俗資料館、群馬県玉村町教育委員会、埼玉県川越市教育委員会、佐久市教育委員会、塩尻市立平出博物館、信濃国分寺、東京都国分寺市教育委員会、栃木県教育委員会、㈶とちぎ生涯学習文化財団埋蔵文化財センター、長野県教育委員会、長野県立歴史館、松本市教育委員会、松本市立考古博物館、箕輪町教育委員会、箕輪町郷土博物館

協力者（五十音順、敬称略）

赤松茂、板橋正幸、市澤英利、岡田正彦、尾見智志、川上元、黒岩龍也、小林真寿、小林康男、坂井勇雄、塩入法道、柴秀毅、澁谷恵美子、下平博行、土屋積、堤隆、鳥羽嘉彦、直井雅尚、中里信之、中澤裕美、中島直樹、中山晋、林茂伸、原田政信、藤森芳房、水澤教子、三石宗一

表紙写真　左上・阿智村神坂峠祭祀遺跡出土品（長野県宝・古墳時代・阿智村所蔵・阿智村写真提供）

右上・阿智村神坂峠遠望（阿智村写真提供）

左下・松本市の保福寺峠万葉歌碑

右下・信濃国分寺南大門跡出土八葉複弁蓮華文軒丸瓦（奈良時代後期・当館所蔵）

裏表紙カット　上田市国分遺跡群で発見された奈良・平安時代の道路状遺構

——新生「上田市」発足3周年記念事業——

信濃の東山道と万葉歌

平成21年9月12日発行

編集発行　上田市立信濃国分寺資料館

〒386-0016
長野県上田市国分1125番地
電話・FAX（0268）27-8706
E-mail: kokubunji@city.ueda.nagano.jp
URL: http://museum.umic.ueda.nagano.jp/kokubunji/

印刷　田口印刷株式会社

092. 193
Sh 59